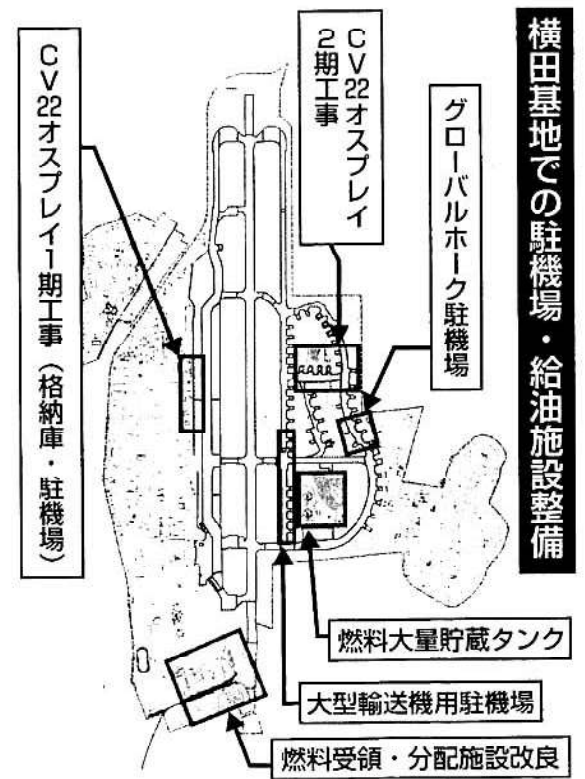


在日米軍横田基地（東京・多摩地域）で米軍のための新たな駐機場整備にむけた動きが明らかになりました。14日の日米安保条約に基づく地位協定の運用について協議する日米合同委員会で「横田飛行場における駐機場の敷地造成」を日本政府の負担で実施することを合意。平和団体は「米軍が日本を拠点に競争するための基地強化は許されない」と批判しています。



# 費用 日本が負担

合意について、防衛省報道室は「横田飛行場において駐機場の敷地造成を実施することについて、日米間で基本的な合意に至ったもの」と説明。現時点で造成を行う具体的な場所や面積を含む詳細な整備内容は米側と調整中だとしています。費用については「日本の同盟強靱（きょうじん）化予算（在日米軍駐留経費負担）で実施」するとして日本政府が負担することを明らかにしました。駐機場を使用する機種は「米軍の運用に関する事項だ」として回答しませんでした。

存の駐機場を改修し同機6機分の駐機場を設置。さらに東側に司令部やシミュレーター施設などとともに新たな駐機場6機分が2022年4月に完成しています。

ほかに、夏場にグアムから横田基地に展開している無人偵察機RQ4グローバルホーク5機分の駐機場（19年6月完成）、C130J輸送機5機とC17輸送機4機分の新たな駐機場（21年10月暫定完成）も建設されるなど、次つぎに駐機場が増設されています。ジェット燃料を備蓄する新たな大型タンク2基の建設や、鉄道車両やトラックなどで輸送された燃料を受け入れて分配する施設の改修も行っています。米空軍はインド太平洋地域での軍事作戦で、迅速・大規模に

部隊を投入するために、横田基地を空中給油や中継、物資・兵員輸送など拠点として強化しています。

「一体化」不安

# 米軍横田基地に新駐機場計画

横田基地では、2018年の米空軍特殊作戦機CV22オスプレイの配備に合わせて、滑走路西側の既

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の奥富喜一代表は「16、17両日開催された『横田基地友好祭』の最中もあちこちでブルドーザーが活躍し、工事が進められていました。米軍機の展示が大幅に減り、自衛隊機が目立ち、米軍の作戦を自衛隊に肩代わりさせようとしているのではないかと懸念しています。戦争をストップさせようの声を大きくあげるのは、今しかありません」と話しています。

## 増強つぎつぎ

↑ 赤旗2026年5月27日付け 一部抜粋

**米軍横田基地監視レポート**  
by 羽村平和委員会 2026年6月

yokotajoho のブログ その3 (2024.4.18 ~)  
yokotajoho のブログ、YOKOTAJOHO のブログ その2 も保存されています  
横田基地の撤去を求める西多摩の会 🔍 検索